

流通とS C・私の視点

2020年9月17日

視点(2353) 世界的及び日本的異次元経済におけるコロナショックの位置づけ(その1)!!

(流通経済編)

コロナショック(コロナ禍→ウィズコロナ→アフターコロナの総称)のような経済・社会・消費・生活に影響を与える過去の世界的出来事は次の通りです。

経済ショック	基軸年度	内 容
世界大恐慌	1929年	①第1次世界大戦後のアメリカの世界の工場化とドルの基軸貨幣化によるアメリカ経済の発展とその後の需給ギャップのマイナス化によるニューヨーク株の大暴落 ②世界に波及して世界不況が起こり、各国はナショナリズム化してブロック経済化が進展 ③結果的に第2次世界大戦が勃発
第2次世界大戦の終結	1945年	①軍需産業の平和産業化と戦争復興経済で好景気化 ②経済が活発化し、ライフスタイル概念を基軸とした消費が旺盛化 ③特にアメリカでは郊外化・カーライフ化・家族化・電化生活のアメリカンドリーム のライフスタイルが、その後の日本やヨーロッパへ波及する
ニクソンショック	1971年	①アメリカの経済のモノ離れ現象による停滞化と基軸貨幣のドルの金本位制の廃止によるドル基軸の経済が希薄化する ②ドルの脱金本位制によりドルの発行が自由となり、その後の金融を基軸とする経済が確立される
オイルショック	1973年(第1次) 1979年(第2次)	①第4次中東戦争でアラブ産油国が石油輸出を制限したための原油価格が高騰した ②その結果、省エネ意識の高まりと日本を中心とした省エネ産業の発展は新常态化した
ソ連崩壊と東西冷戦の終焉	1991年	①ソ連崩壊による東西の次戦が終焉し、軍縮による平和産業化や軍需技術の民間開放により、ICT(情報通信技術)を中心としたコンテンツが民間企業に波及し、その後のデジタル化の出発点となった ②ソ連を中心とする東欧諸国が自由経済化して世界経済へ参入して、グローバル化が進展した
ICT(情報通信技術)バブルの崩壊	2001年	①1980年代から萌芽していたICTが新たな技術革新を伴う産業化が進み、経済を牽引する経済を築いた ②ICTの産業化は1971年から萌芽していた金融経済と一体化してIPO(新規上場による新株発行)に結びつき、ICTバブルを引き起こした ③2001年頃からICTバブルが崩壊して株価が大幅に低下し、経済不況を招く
リーマンショック	2007年	①ポストICTバブルの経済政策として、住宅を基軸とする経済の活性化を行い、同時に住宅産業と金融経済が一体化して、デリバティブ(金融派生商品)を活用したファンドが住宅(不動産)バブルを誘発する(ファンドバブルとも言う) ②住宅バブルが崩壊(リーマンブラザーズの倒産)し、世界的に金融業界衝撃を与え、世界経済を不況化する ③リーマンショックから回復するため、アメリカを中心に世界各国が金融の質的・量的緩和を大胆に行う ④その結果、超金融緩和経済が確立される
コロナショック	2020年	①コロナウイルスが2019年秋ごろから2020年にかけて世界的に蔓延し、人やモノの動きが制限され経済が大混乱する ②その結果、一時的に先進国のGDPはリーマンショックを上回る大幅な減少(先進国で瞬間GDPが30%減少)した。 ③各国はリーマンショック以上の金融緩和政策を実施し、低金利・低成長時代を迎えようとしている ④一方、非接触&遠隔操作志向やAI・IoT・RPA・EC等のDX(デジタルトランスフォーメーション)産業が大躍進 ⑤同時に、持続可能をコンセプトとする産業や生活スタイルが新常态化する

(流通とS C・私の視点 2354へ続く)

(株)ダイナミックマーケティング社⁺⁸

代表 六 車 秀 之